

ヒアリの簡易的な見分け方（暫定版）

2017.7. 環境省外来生物対策室
今後必要に応じて更新していきます。

ヒアリかどうかは、専門家が顕微鏡を使って観察しなければ、判断できませんが、
ヒアリの疑いの有無は、下記の要領でおおよそわかります。

肉眼で

- ・赤っぽくツヤツヤしている。腹部の色は暗め
- ・働きアリの大きさが2.5mm-6.5mmと連続的な変異がある
- ・行列を作り餌に集まる

ヒアリでないもの

- ・黒いアリ（ただし海外には黒いヒアリ類もいます）
- ・2.5mm以下の小さいアリ
- ・赤っぽいアリでも大きさに連続的な変異のないもの

顕微鏡で

頭楯前縁中央に小突起
（口もとにでっぱり）
アカカミアリは頭楯前縁中央に
小突起はない。他の特徴は同じ。



触覚は10節
先端の2つが大きい

腹柄が2節
（背中に2つのコブ）



あくまで簡易なものです。
正確な同定は専門機関に
お願いすることとなります。

(参考)

ヒアリについて

1. 生態について

- 原産地：南米
- 日本での定着状況：国内未定着
- 亜熱帯～暖温帯に生息し、草地など比較的開けた環境を好む。土で直径 25～60 cm、高さ 15～50 cm のドーム状のアリ塚を作る。雑食性で、節足動物、小型脊椎動物、樹液、花蜜などを餌とする。

2. 懸念される影響

- (1) 生態系にかかわる影響：他種のアリと競合し駆逐するおそれがある。極めて攻撃的で、節足動物のほか爬虫類、小型哺乳類をも集団で攻撃し捕食することが知られ、鳥類の営巣・雛の生育に影響を及ぼした例もある。
- (2) 農林水産業にかかわる影響：牛、馬、鶏など家畜への死傷被害
- (3) 人体に関わる被害：刺されると、アルカロイド系の強い毒による痛みやかゆみ、発熱、じんましん、激しい動悸等の症状が引き起こされる。アレルギー性のショックで昏睡状態に陥ることもあり、米国ではこれまでに多くの死者が出ている。

※貨物等に紛れて気付かないうちに持ち込まれ、中国や台湾など環太平洋諸国に分布が急速に広がっている。

